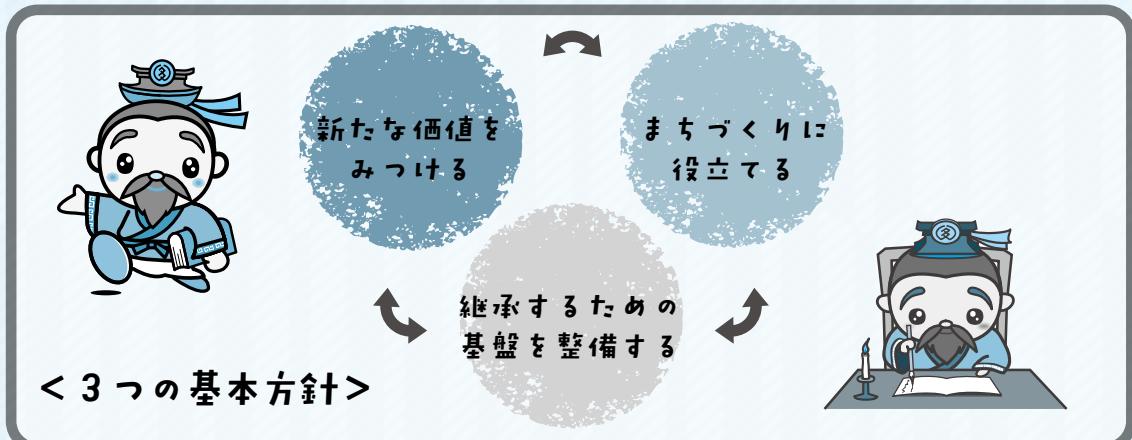


<基本方針と目標>

市内で取り組まれている「多久学」の視点を通じて文化財の把握をすすめます。また、多久学の考えは、多久聖廟を継承してきた歴史から、「人づくり」が重要なテーマのひとつであり、多久の特色であることを示しています。



<目標> 文化財を受け継ぎ活かして、多久の魅力を向上させる

TOPICS 多久初の前方後円墳が発掘！

今回、市内初の前方後円墳が見つかった牟田辺遺跡は、弥生時代には拠点集落として人々が生活を営んでいた場所で、1974年から6回に渡り発掘調査が行われました。その間に細形銅剣などの副葬品や壺棺墓群、環濠などが発見されました。昨年6月から行っていた第7次調査で、弥生時代の遺構や5世紀中頃につくられた前方後円墳と円墳、6世紀ごろにつくられた円墳が発掘されました。

前方後円墳は見晴らしの良い丘の上にあり、王族の墓だと考えられます。全長18メートルと前方後円墳としては小さいサイズですが豊富な副葬品が発見されました。

前方後円墳から出土した馬具の一種とみられている「三環鈴」や「鈴杏葉」は大変状態が良く、当時の音色を聞くことができます。さらに石室から見つかった装身具の「獅噛文帯金具」は出土例がほとんどなく、小さな古墳から発見されることも珍しい品です。

多久は石器の材料になる安山岩の原産地で、2万年以前から人々が生活をしていたとされます。また安山岩が豊富だったことから、独自の文化が育まれた特殊な地域だったことが伺えます。

▲遺跡の一部